

## 特別支援学校生徒との交流

11月18日(火)、附属特別支援学校の生徒が来校し、1年生と交流学习を行いました。

美術では、自分の手を思い思いに表現しました。グループに分かれて、クレヨンや絵の具の色材を使い、ローラーやブラシ、マスキングを用いて自由な表現を楽しみました。最後に各々が作った手を模造紙に貼り、一つの作品を創り上げることで、一人一人の個性を引き立たせながらも一体感のある作品が完成しました。

音楽では、「拍の流れに乗って歌おう」をめあてに、「アルプス一万尺」「みかんの花咲く丘」の手遊びや「赤とんぼ」の指揮、ディズニーソングや「翼をください」の歌唱に取り組みました。「翼をください」では、パートに分かれて練習した後、全員で混声3部合唱をしました。

授業後は体育館で輪になって昼食をとり、レクリエーションを行って、楽しい時間を過ごしながら交流を深めました。



美術で制作した「手」

## PTCCで命の尊さについて考えました



今年も正門にある風船の碑の前に、カーネーションが献げられました。本校の社会科の教員だった故田中啓司先生が好きだった花です。田中先生は19年前の平成18年11月20日、御自宅で突然倒れ、帰らぬ人となりました。

田中先生は生前、命の尊さ、いじめは絶対に許さないことなどを生徒に説いていらっしゃいました。先生の思いは、当時の生徒たちを動かし、その年の生徒総会の特別議題として「いじめを許さない、命を大切に作る学校づくり」が取り上げられました。そして、11月20日を「附中人権の日」と定め、思いやりや命の大切さを考える日とすること、田中先生の遺訓「風船の詩」を刻んだ石碑を設置し、附中のシンボルとすることが可決されました。完成した風船の碑には、「風船」の詩が、田中先生が好きだったカーネーションの花とともに刻まれています。また、「生徒が太陽なら、教師は暗い夜道を優しく照らすお月様だ」という先生の思いから、太陽と月がデザインされています。命には限りがあります。だからこそ、自分の命も周りの人の命も大切にしなければなりません。そして、田中先生の願いのように、それぞれの命を精一杯輝かせながら、自分らしく充実した人生を送ってほしいと思っています。

今年のPTCCでは、1年生は、学年全体で絵本「葉っぱのフレディ」を読んで、命について考えました。2年生は、戦場において助かる見込みの少ない少年の酸素ボンベを外した医師の判断の是非を、3年生では、臓器提供の意思表示をしている子どもの家族の承諾・非承諾を、それぞれ考えました。どの学年も、仲間の意見を傾聴し、真剣に深く考えているまなざしばかりでした。

また、保護者の皆様には、教養講座として、長崎大学の岩永竜一郎先生による「発達特性とその生かし方・受け止め方について」の御講演と、スクールカウンセラーの山田喜典先生によるミニアクティビティに参加していただきました。岩永先生の御講演では、できていないことばかりに注目する大人の特性を理解(自戒)し、子どもの望ましい言動を行動表現でたくさんほめることなど、具体的な子育ての工夫について多くの御示唆をいただきました。山田先生には、家庭ですぐに取り入れられるアドジャン(コミュニケーションの方法)などを教えていただき、参加者皆が楽しい時間を過ごしました。

「P(保護者)とT(教師)、C(子ども)、そしてC(カウンセラー、コミュニティー)が手を取り合って、子どもたちの健全な教育環境の整備充実に向けて努力する」というPTCC活動の目的と、「附中人権の日」に込められた多くの人の思いやこの日の意義が、これからも風化することなく受け継がれていくことを心から願っています。

(裏面に続きます)

風船は私たちの命に似ているね  
うれしいとふくらみ 悲しいとしぼむ  
それをくり返して大きくなるんだね  
風船のようにふとしたことで  
命が消えたりしないように  
自分と仲間の命を  
強く大きくふくらませていこうね

(田中啓司先生遺訓)

風船

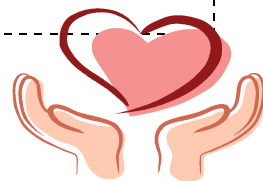




「附中Now」は、今号で通算776号を迎えました。そこで、特別企画として、今号では76回生の、次号777号では77回生の、次々号778号では78回生の作文をそれぞれ掲載いたします。

附中生が感じている附中生活の「Now」をどうぞお読みください。

「ありがたい姿」とは何だろう。3年生になり新たな生活が始まると同時に、私はある言葉と出会った。それが「ありがたい姿」。初めはこの言葉の意味があまり理解できていなかった。誰もが小さな頃から質問される「将来の夢」とは違うのか、「憧れる人」とは違うのか。考えたことがなかった自分のありがたい姿は、これまでの附属中での生活を振り返ることで、自分の中で徐々に明確になっていった。



今年度の附中祭「春」は、3年生として最初の大きな行事となった。特に、創作演技では団長、副団長を中心にたくさんの対話を重ね、彩り溢れる創作演技を創り上げていた。そんなリーダーの姿から、目標に向かう中で自分たちができていること、自分たちに足りないものを見極める力、本気で取り組むことの大切さを改めて感じた。附中祭「春」が終わった後の全校生徒で撮ったピースの写真には、本気で取り組んだからこそ生まれた笑顔があり、私にとって大切な思い出の一つとなった。

日常生活や部活動の中では、周りを笑顔にさせる力を持つ人にたくさん出会った。また、その人たちには自分の目標に向かって努力を重ね、目標を達成して最高の笑顔を浮かべる姿があった。そのことから私は周りを笑顔にさせることだけでなく、自分自身も笑顔にさせられる力も必要だと感じた。

私は自分も周りも笑顔にさせることができ、この人に会えてよかったと思える人でありたいと思う。これまでの附属中でのたくさんの経験から見つけた私のありがたい姿だ。これからの100日は、ありがたい姿を教えてくれた附属中への感謝を胸に、仲間との会話も対話も心から楽しんで1日1日を大切に過ごしていきたい。

3年1組 重松 杏さん

百日祭が近づき、卒業式まで残り100日という節目を前にして、改めて附属中の素晴らしさを実感するようになった。校訓である「光と力と望みと」のもと過ごした附中生としての3年間を振り返ってみる。

「光」：光がさすところは、明るく、そして温かい

附中祭「春」や「秋」で大きな役割を担い、特に「春」では運営部救護係のチーフとして任された仕事をやり遂げた。私を待っていたのは、周りからの光のように温かい言葉だった。

「力」：力は、自らの人生を切り開く心身の根源力である

自分を信じ、歩み続けたからこそ、さまざまな角度から物事を見ることを知り、多くの異なる考え方と出会い、学力面でも精神面でも大きく成長することができた。

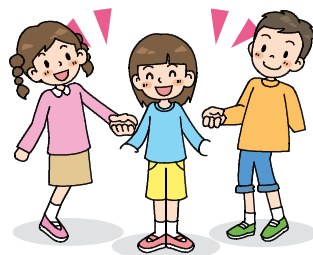
「望み」：望みは、人生の夢であり目標である

短学活や学年集会での友や先生方の言葉は、私のあり方について深く考えるきっかけとなった。特に、1年生から私に関わってくださった先生方の経験談やアドバイスは、これからの私をきっと支えてくれるだろう。

今、私は多くの人に感謝を伝えたい。いつもそばにいて、私が挑戦するとき「頑張れ」と応援してくれた友。悩んでいるときに寄り添い、新たな挑戦へ踏み出す際には労いの言葉をかけてくださった先生方。そして、この学校に通わせてくれ、私の「やりたい」をいつも肯定してくれた両親。すべての人に心から感謝したい。

卒業まであと100日。これまで共に過ごした友と、私たちの成長を優しく、時に厳しく見守り指導してくださった先生方への感謝を忘れず、後輩に附中生としてのあるべき姿を示せる100日にしたい。

3年2組 松本 光さん



## 12月の行事

1日（月） 実行部会  
3日（水） 百日祭練習  
4日（木） 百日祭

9日（火） 学校保健委員会講演会  
（全生徒参加・中部講堂）  
10日（水） 生徒集会  
11日（木） 避難訓練  
25日（木） 冬季休業開始

## 百日祭のお知らせ



本校では毎年、3年生がこれまでの中学校生活を振り返りながら自己を見つめ、進路決定に向けた決意を新たにするを目的として、卒業証書授与式まで残り100日となる節目の日に、「百日祭」を行っています。1、2年生にとっては、目標に向かって大きな一歩を踏み出そうとする先輩の姿を見ることによって、次代を担う者としての立場や役割を自覚するよい機会となっています。

今年度は、12月4日（木）に開催します。例年、3年生の保護者の皆様にもお子様の成長した姿を見ていただいております。ぜひ御来場の上、3年生の凛とした姿を御覧ください。